

髓芽腫の会LINEグループ有志主催

< 髓芽腫の会LINEグループ特別企画 >

仲間と繋がり 少し先の未来を見よう

今から数年前 偶然つながった髓芽腫を経験した子どもを持つママさんが小さなLINEグループを作りました。時を経て、メンバー20名程となり、みんなで悩み事の解決への糸口を見つけたり、時にはZoomを活用してお顔を見ながらの“おしゃべり会”を開催したりと 和やかな場が出来上がっています。今回はそのLINEグループの特別企画。おしゃべり会で話題になることの多い「内分泌 長期フォローアップ」にクローズアップしてみました。仲間と繋がり 共に学び 少し先の未来を見つめませんか？

日時 令和3年10月24日(日) 10時～12時半

ZOOMオンライン開催(9時45分～入室可能)

参加費
無料

対象 髓芽腫経験者のご家族・小児脳腫瘍経験者のご家族

締切 10月20日(水)

申込方法

QRコードを読み取り、必要事項を入力のうち、お申し込みください
申込み確認後 開催日前日にZOOM入室IDをお送りします
〔QRコードが読み取れない場合〕

お申し込み URL

<https://sgfm.jp/f/d1f1985e19c49e2084343d0346309e14>



お申込み QRコード

お申し込み後、受付完了メールが届かない場合、下記お問合せまでご連絡ください

※ @sgfm.jpについて受信可能にしておいて下さい

第一部 特別講演「小児脳腫瘍経験者の長期フォローアップと健康管理～髓芽腫を中心に～」

10:10～ 特別講師

横谷進 先生

公立大学法人 福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター甲状腺・内分泌センター長

第二部 スペシャル企画「夢をもつこと その先に広がる多くのつながり」

11:30～ スペシャルゲスト 髓芽腫サバイバーでもあるアスリートをお迎えして

椿浩平 選手 三井住友海上トライアスロン部 所属

注意事項 イベント中の動画や写真撮影、録音、SNSへの投稿は禁止とさせていただきます

お問い合わせ お問い合わせ用QRコードを読み取りのうち、お問合せください

〔QRコードが読み取れない場合〕

お問合せ URL

<https://sgfm.jp/f/888d246629c6671d8d11dc89707071eb>



お問合せはこちらから

後援 公益財団法人 がんの子どもを守る会・小児がん患者会ネットワーク・小児脳腫瘍の会
にじいろ電車(東京女子医大病院脳神経外科家族の会)
小児がん経験者と家族の会ハッピーウイング(富山)
近畿小児脳腫瘍の家族会・経験者グループmiracleBrain

<特別講師略歴>



横谷 進先生 (YOKOYASusumu, MD, PhD)

〔所 属〕

福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学センター 甲状腺・内分泌センター長

〔略 歴〕

1976 年 東京大学医学部卒業

1976 年 神奈川県立こども医療センターおよび自治医科大学において臨床小児科学、

1979 年 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科において小児内分泌代謝学を学ぶ

1983 ~ 85 年

マニトバ大学 (カナダ) 医学部生理学教室 H・G・Friesen 教授のもとで成長ホルモンの研究に従事

1988 年 虎の門病院小児科医員、1993 年 同部長に就任

2007 年 国立成育医療センター (現・国立成育医療研究センター) 第一専門診療部長

2013 年 国立成育医療研究センター病院副院長 / 生体防御系内科部長

2017 年より現職

2007 年 日本小児内分泌学会内に CCS 委員会を立ち上げ、初代委員長となる

2011 年東日本大震災時に日本小児内分泌学会理事長 (2010 ~ 2014) を務めた

〔受賞歴〕

日本小児内分泌学会藤枝賞 (2012)、日本小児内分泌学会学会賞 (2014)

<スペシャルゲスト略歴>



椿 浩平 (つばき こうへい) 選手

1991 年生まれ (29 歳) 埼玉県出身

三井住友海上トライアスロン部所属

幼少期から水泳をはじめ、中学校では陸上競技部で長距離選手として活躍

同時に始めたトライアスロンでもジュニア時代から好成績をおさめ、

U19 日本選手権 4 連覇、U23 日本選手権 3 度の優勝など、

若手のエース選手として活躍

筑波大学を卒業後、1 年のプロ生活を経て 2015 年に三井住友海上へ入社

同年にアジアカップ・大阪優勝、2015 年日本選手権 3 位入賞など実績を残すなか、

2016 年に髄芽腫を発症、

闘病・リハビリ生活を乗り越え 2018 年にはレースに復帰

2019 年より同所属先であるパラトライアスロン米岡選手のガイドとしても活動を始め、

東京 2020 パラリンピックで銅メダルを獲得

今後は個人でのパリオリンピック出場を目指し、再スタートを切っている